

第1回 同窓会長賞 授賞

大学生生活を振り返って

平成 28 年度卒業 検査技術学科 廣木 知世



「同窓会長賞」をいただいたこと、大変うれしく思っております。

私は群馬パース大学での4年間、学友会執行部として、数多くの経験をさせていただきました。新入生歓迎会や学内スポーツ大会、流星祭などの学校行事の企画・運営を行う上で、課題を把握・解決し、物事を突き詰めていくことの大切さを学びました。準備を行う過程で、問題点や改善点を常に意識し、限られた時間の中でより良い行事になるよう努めてまいりました。これらを通し、医療従事者として働いていく上で必要不可欠である、「自分の考えをもって行動し、その行動に責任をもつこと」を身につけることができましたと思います。加えて、仲間と協力し学校行事を成功に導くことの達成感を味わうことができ、とても良い思い出となりました。

また、ボランティアに参加し、地域の方々に支えられていることを実感いたしました。ボランティアは、「無償で手伝う立場」ということに注目されがちではありますが、人と人とのつながりの中に身を置くことで、自分自身の成長につながることに魅力を感じています。多くの方々と関わることで視野が広がり、大変充実した時間を過ごすことができました。

大学生生活4年間で学んだ専門的な知識に加え、課外活動で得た経験を活かし、日々精進していきたいと思えます。いつも支えてくださった教職員の方々、地域の方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。

「同窓会長賞」
設立経緯について

会長 設楽 達則



今年の3月に行われました学位記授与式にて、同窓会より「同窓会長賞」と名付けた賞を幹部役員で話し合い授与することを決定し、1回目の賞状と盾の授与を行いました。

授与の経緯について、同窓会の存在意義として母校の発展に寄与することが非常に大切な役割であると認識しています。そこで、同窓会としても、その意義を担う学生に対し、その行動をたたえることも役割としての行いであると考えました。

在学中、群馬パース大学のために、何と定めるのではなく、いろいろな面で貢献度が顕著であった方を表彰したいと思ひ、また、学位記授与式という晴れ場で表彰したいということを大学にお願いして、この賞を設立いたしました。

平成29年度 群馬パース同窓会を 開催しました!

平成29年度 群馬パース同窓会



平成29年6月24日(土)、今年4月に完成した群馬パース大学4号館にて同窓会総会を開催することができました。当日は忙しい中、総勢51名の方に参加いただきました。総会では昨年度の事業報告、決算、今年度の事業計画案、予算案等について審議が行われました。また、今回は総会後に懇親会を行い日頃の仕事の悩みなどを同窓生同士話し合えたよう、和やかな雰囲気の中、みな笑顔で満足された様子でした。

昨年度より同窓会組織を充実させる取り組みを行っており、看護学科では大学1期生から今年卒業の9期生までの方が参加できました。引き続き同窓生のご理解ご協力をいただき、来年度はさらに多くの同窓生が参加できる同窓会を催したいと考えます。今回、勤務などの事情により参加できなかった同窓生の皆様、来年の同窓会には是非ご参加ください。



懇親会にて和やかに談笑

平成29年度 同窓会



設楽会長の挨拶

平成29年度 群馬パース同窓会



平成29年度 群馬パース同窓会



高橋正明学部長よりご挨拶



よりよい同窓会にするために

方針説明

会長 設楽 達 則

去る6月24日(土)に群馬パース同窓会総会が開催されました。総会の審議終了後、特別にお時間をいただきまして、出席された同窓生の皆さんに向けて、今後の同窓会の方針について説明させていただきました。今回は、その時お話しさせていただいた内容を掻い摘んで書かせていただきます。

群馬パース同窓会は、群馬パース学園短期大学同窓会として今から15年前の平成14年に誕生し、歴代会長(青柳直樹氏、池田豊氏、小野章夫氏)から現在のバトンを私が引き継いでいます。15年という期間の中で我々の母校である群馬パース学園は大きく変化しました。看護学科、理学療法学科に加え、検査技術学科、放射線学科、臨床工学科が加わり、計5学科となりました。15年という時間と新学科の設立によって当然のことながら同窓生も増えました。平成29年4月の時点で同窓生は1,900人を超えています。短大時代の私からしますと、当時では考えられない、とても大きい数字に感じます。そして今後、同窓生はさらに増えます。

同窓生が増えたことにより組織である同窓会も変化を迫られています。これまで同窓会は十数人の同窓会役員を中心に活動していました。いま1,900人という数を目の前にしますと若干十数人のみで同窓会を動かすのは無理があります。そこで同窓生どうしのネットワークが大変重要になってきます。同窓会に関



する情報、パースの情報を、同窓会全体で漏れなくスムーズに共有できる必要があります。そのことが同窓会という組織を機能させることに繋がると考えています。

現状、学年幹事やそれ以外の同窓生までが機能しているとは言いがたい状況です。我々の直近の課題はネットワークの構築であると言えるでしょう。この課題をどう解決するか。それは各学科・学年の幹事の皆さんが鍵を握っていると思っています。同窓会が機能するためには、やはり連絡が取れなければ始まりません。そこで、SNS（ソーシャルネットワークサービス）を利用してより効率的で漏れない連絡方法を確立したいと考えています。まずは同窓会役員と各学科・学年の幹事との連絡方法を整備し、次に幹事と各クラスの同窓生との「ヨコ」のつながりを強化したいと思います。

以前、高橋正明学部長がこんな言葉を下さいました。「同窓会は卒業生が帰る場所」だと。全くその通りだと思いました。私たちはどんな職場に勤めようともパースの卒業生です。私たちのキャリアの中で母校であるパースは、言わば私たちのルーツでありホームです。同窓会はそれを思い出させてくれる大切な場所です。同窓生全員が日々の仕事の中でパースの卒業生であることを誇りに思いながら仕事ができれば、同窓生としてこれほど幸せなことはないと思います。

同窓生どうし連携を密に取り、同窓会をより活性化しましょう。常日頃、同窓会をサポートしていただいている、各学科の同窓会顧問の先生方や関係の皆様にも変わらないご指導をいただきながら、同窓生全体で同窓会を盛り上げていければと思います。

医療法人鉄焦会 亀田総合病院 勤務



浅香 杏奈
(看護学科 2014 年度卒)

私は現在、千葉県鴨川市にある亀田総合病院の消化器内科・乳腺外科を主とする病棟に勤務しています。大学入学当初は地元である群馬県内で就

職するつもりでいましたが、高校時代に見学に行った亀田総合病院への憧れが強く残っており、就職することを決めました。

入職当初は慣れない環境に不安も多く、看護師としてやっていく自信もありませんでした。しかし、患者様からのあたたかいお褒めの言葉や、先輩方・同期の支えのおかげもあり、少しずつ自分に自信を持てるようになっていきました。まだまだ、技術・知識不足な面も多く、先輩方のお力を借りなければならないこともあります。少しずつ一人でできることが増えていくことで、自分の成長を感じ、充実した毎日を送っています。

日々の業務の中で失敗してしまったり、うまくいかないことがあったりすると、自信をなくしてしまうこともあります。そのような時には、少し離れた所にある神社やお寺に行き、心を落ち着けて気持ちを入れ替えるようにしています。やはり、自分の心に余裕がなければ、患者様に適切な看護を提供できないと感じ、自分のメンタルケアの重要性を改めて実感しました。うまく自分の心と向き合い、ストレスを解消していきながら、自分のできる最大限の看護を患者様に提供していけたら良いと思います。

株式会社 MWS日高 勤務

津久井 あゆみ

(理学療法学科 2014 年度卒業)



私は、MWS日高でデイサービス・ショートステイ・訪問看護からの訪問リハビリ・地域でのサロン活動等に携わっています。

私自身、部活でケガをしてリハビリを受けた事がきっかけで、理学療法士を目指したので、将来は、整形外科の病院でスポーツ復帰を目指す人の手伝いをしたいと思っていました。ですが、4年生の臨床実習で、緩和ケアに関わらせていただき、人生の最後までその人を支える事が理学療法士にも出来る事を知り現在の職場を選びました。

現在、デイサービスでは、歩行練習や日常動作練習の他に、バンド活動としてライブに出る為に大きな声を出す練習や、前を向いて杖で歩く練習、畑作業など、その方の生きがいを応援しています。利用者様がいきいきと活動している事、その話を楽しそうに話される事が私のモチベーションになっています。その他にも地域の公民館などで運動教室や講話などの地域リハビリの活動も行なっています。

自宅で暮らす方は様々なサービスを利用しており、その方の家族だけでなく介護士、社会福祉士、ケアマネージャー、医師など多職種との連携が大切になってきます。多職種連携とよく言われていますがとても難しく、私はまだまだ出来ていない部分があると思います。利用者様のみを見るのではなくその方がその方らしく生活が送れるよう、周囲を取り巻く環境を考慮しながら応援出来るように今後も努力していきたいと思っています。

医療法人財団 明理会 新松戸中央総合病院 勤務

相川 晴香

(理学療法学科 2015 年度卒)



私は、高校1年生の時に両膝の手術を経験し、そこで初めて理学療法士の存在を知りました。部活へ復帰するためのリハビリは、そう簡単なものではなく、何度も挫けそうになりました。しかし、その時誰よりも親身になってサポートしてくださったのが、当時の

担当の理学療法士の先生でした。

その方と出会ったことがきっかけで、私も人の心に寄り添う事のできる理学療法士になりたいと思うようになり、この道に進みました。

現在私は、急性期病院で理学療法士として働いております。入職当初は、業務をこなすのに手一杯で、目まぐるしく病態の変わっていく患者様に食らいつくのがやっとでした。しかし最近、少しずつではありますが、目の前の患者様にとって1番大事な事は何なのか、どういう選択をしたら生活がより豊かになるのか、という部分を考えながら患者様と接せられるようになりました。

大学4年時の臨床実習で、教育担当の先生に言われた「目の前の患者様を1症例として見るのではなく、1人の人として見つめなさい」という言葉の大切さを、今身をもって実感しております。

知識・技術はまだまだ磨き途中ですが、患者様が辛い時、少しでも背中を後押し出来る存在になれるよう、人の心に寄り添うという部分を大切に、努力していけたらと思います。

医療法人社団 ほたか会
ほたか病院 勤務

古郡 佳奈
(看護学科 2014年度卒)



看護師の道を選んだのは、小さい頃から人の役に立つのが好きで、人の役に立つ仕事をしたいと思ったのがきっかけでした。

そんな中、パース大学に入学しました。在学中にはフットサルサークルに所属し、みんなで毎日の様に練習し、私立大学の最後の大会で過去最高の順位になった事が1番の思い出になっています。喜びをみんなで分かち合えたことやもっと上にいきたかったなど悔しい気持ちになりました。勉強の面では、粗末になってしまう事が多く、先生に多く迷惑をかけてしまった事も覚えています。今では、もっと勉強しておけばよかったと後悔しています。

そんな私も現在、ほたか病院に就職して終末期の医療ということで、その方の最期に関わる重要な仕事をさせていただいています。あまり自分の訴えをすることの出来ない患者さんが多い今の病棟では、いかに患者さんが安楽に、そして患者さんの訴えを聞けるかを重要視して看護を行っています。そして、患者さんと関わっていく中で、患者さんの笑顔を見ることが出来たり、「ありがとう」と言ってもらえたりした時には、この仕事にとってもやりがいを覚え、もっと患者さんに喜んでもらいたいと言う気持ちになります。

今後の目標としては、看護師としてまだまだ未熟なこともあるので、様々なことの知識を取り入れてより良い看護を出来るように日々努力していきたいです。

Ms+Safron 無料就職相談・キャリアサポート
Medical+Safran

卒業生すべての皆さまの
再就職・転職をご支援いたします。
まずは、お気軽にご相談ください。



メディカルサフランからのお知らせ

メディカルサフランでは群馬パース同窓会の運営をサポートさせていただいております。これまで以上に情報を発信し、同窓生の皆様に喜んで頂けるような企画などを考え、同窓会の発展に貢献してまいります。同窓生の皆様どうぞ宜しくお願い致します。

☎ 027-381-6002 (10:00-18:00)

🚗 高崎市問屋町3-3-4 群馬パース大学4号館 1F

✉ info@medical-safran.com

メディカルサフラン

検索



同窓会事務局からのお知らせ

同窓会事務局では、

1. 会員の住所管理
2. 同窓会報の作成・発行
3. 同窓会ホームページの管理
4. 総会、懇親会の運営

等の業務を行っています。

これらの業務に関連して、次の方は事務局にご連絡ください。

1. 住所・氏名・職場に変更があった方
2. 同窓会報に寄稿したい方
3. 支部会を組織したい方

連絡窓口

〒370-0006
群馬県高崎市問屋町3-3-4
群馬パース大学4号館 1F
メディカル サフラン
TEL: 027-381-6002
FAX: 027-388-0909
E-mail: terasawa@medical-safran.com